

## 歳末の忘れ物

昭和五十八年師走の二十九日、銀行の閉店前に年越しの金をおろしておかなくては二時半ごろ慌しく出かけた妻が、とっぷり暮れてからやっと帰って来た。いつもなら玄関の鈴の音よりも早く、ただいまという声をするのに今日に限って声が無い。けばだったような妻の蒼い顔を見て何かあったなと思う。

重い口を開いてぼつぼつ云うのを聞いてみると、自動窓口で九万円を引き出して手に取るのを忘れ、用済みのカードだけを財布にしまいながらうっかり歩き出して初めて気がついた。数歩離れてから慌てて引き返したけれども、もう現金支払い口にはお金は無かった。ごく短い時間、多分三十秒足らずの間に誰かが持ち去ったに違いないけれど、それらしい姿には気が付いてない。九万円もの金を一瞬のうちに失ったと判ると寒くもないのに震えが来て止まらなかつたという。

係りの人が防犯ビデオを再現してみてくれたが、カメラがちょうど首を振って遠ざかるところで、画面には次の人の頭がやっと映っていたそうだ。妻の後ろから現金出納機に近づいて来たその人は機械を操作しないで、すぐに別の、三台並んだうちの一番遠い機械に移っている。奇妙だといえばまことに奇妙な行動だが、手許が映っていないので、残っていた筈の札束に手を出したかどうかは判らない。顔が映っていないのでこの誰とも判らないのだそうだ。一応盗難として警察に届けたけれど、そういうわけでお金が返って来ることはまず期待出来ないといわれたとのこと、まったくやれやれである。

ところで私自身はというと、銀行通いは一切妻まかせで自動窓口の機械の前に立ったことは一度あるきりで、たしか十万円ばかり入金するのにずいぶん手間取って懲り懲りした。まとめて入れれば機械が数えてくれるとは知らないから、両替でもするように札を一枚ずつ喰わせていた。銀行の中にこの機械が現れたのがいつ頃のことかよく知らないけれどそれほど昔ではないだろう。少なくとも学生の頃は奨学金がボタンを押せば出て来たという記憶はない。幸いにして平常、銀行に立ち入らないで済んでいるので便利になったとも思わず、要するに無関心で過ごしてきたけれど、この際好きか嫌いかを問い詰めてみるとやっぱりこの機械は嫌いである。妻にしても窓口嬢との応接であつたらいくら他の事に気を取られていたにせよ、肝腎の金を受け取らないで立ち去るなどという状況は起こらないだろう。なんでも機械化、人減らしの風潮に腹が立つ。勿論九万円も惜しい、そんな大金を置き忘れるなんて全くどうかしている、盗った女(か)どうか知らないが(も)けしからんが、ぼんやりしている方も悪いに決まっている。けれどもふさぎこんでいる妻を見ると可哀そうでもある。たった九万円のことだ、想い千々に乱れて惑乱した。

しかし、実は私もあまり他人のことはいえないのだ。近頃物忘れがひどい。そのための

大失敗というのはまだ露見してないけれど、独り密かに当惑することが度々である。前夜確実に枕元に置いた眼鏡は翌朝どこかへいつているし、ポケットからバイクの鍵がいつの間にか消えているので必死に捜していると、三日前には投函してなければならなかった葉書が出てくる。今、眼の前で現に話している人の名前がどうしても浮かんで来ないことなどは殆ど毎度のことといってよろしい。特にこの一年、老眼が進んだのと呼応して記憶力の衰えもまた著しい。他人事ではない。

妻は今年四十歳の大台に乗る。この事件を老化現象といつてはちょっと気の毒な気もするので、まあ年の瀬の気ぜわしさのせいということにして、しかしこのついうっかりが時と場合によつては命取りになることだってあり得るさ、九万円はもっと大きな災難の警告と思えば諦めもつく、以後気を付けようやと何だか判らないリクツをこねてとりあえず無理に納得。だが、まだなにやら釈然としないでいた。

ところが大晦日になつてその金が返つてきた。

朝、銀行の郵便受けにそっくり投げ込まれていたのだそうだ。警察の人も良かった良かったと言つただけで詳しくは話してくれない。これは私の想像だけれど、ビデオに映っているのが不特定の一通行人ではなくて、銀行のお得意様の一人なのだから調べる気になれば「次のひと」が誰であるかぐらいはすぐに判る筈、「次のひと」も防犯ビデオが作動していることは知つているから自分宛に問い合わせがあつた時にその意味するところは解る。これは深く追及されないうちに返した方がトク：ということになつたのではないだろうか。盗まれたのではなく見失われていた金がまた現れたのであればこれにて一件落着。銀行は客を失わないで済むし、ちょっとした妻の放心が誰かを泥棒にしないで済んでこれまた良かったということで、防犯ビデオは十分目的を果たしたわけだ。

まずはそれで良いようなものだけれど、ちょっともやもやしたものが心に残る。

防犯ビデオが有用だというのは良く判つた。だが、あの機械の前に立つ度に、いや銀行の中に入る度にビデオに自分が記録されている、つまりそこではいつも自分が監視されている、というのはやっぱり気持ちが良いくない。ビデオが捜査に十分活用出来ないことばかり強調して、実際どう利用したかを警察も銀行もはっきり言わないのは、防犯ビデオの胡散臭さを無意識のうち隠したがっているのではないかという気がする。

大晦日が一夜明けるとオーウエルの「一九八四年」がまさに始まって、未来が現在になつていたのであつた。